

第7節 あめりかなまず養殖

アメリカナマズ *Ictalurus punctatus* はアメリカ合衆国原産で、ミシシッピ川流域に広く生息している。わが国には1971(昭46)年に発眼卵や稚魚で導入され、飼育が行われてきた¹⁾。

本県では、郡山町の大和木材(株)の吉崎秀久氏が1978(昭53)年に東京第一製パンの細貝フィッシュファーム研究所から稚魚(10cm)30尾を譲り受け、同社の池で飼育試験を行い、約10年かかって採卵、ふ化に成功、事業の目途がたつようになった。しかし、1993(平5)年の大水害(8・6水害)で養殖魚のほとんどを失い、現在、事業は中止されている。以下、吉崎氏の養殖について簡単に紹介する。

- 1) 池 コンクリート製 広さ・100 m²、水深・80~90cm
- 2) 用水 流水式(28 地下水)
- 3) 餌 雑食性であり、配合飼料を使用
- 4) 成長 ふ化後1年で1~1.5 kg、2~3年で成熟する。
- 5) 産卵は ペアで行うので、別の2 m²程度の池に移す。
- 6) 産卵には管状の産卵器(直径20 cm、長さ60cm)が必要
- 7) 産卵、受精したら、雄が卵の保護役になったのを確認して卵塊を採りあげ、酸素不足で卵が死滅しないよう、ふ化器に移して水流をよくする。産卵数は1腹1~2万粒である。
- 8) ふ化仔魚にはブラインシュリンプを与えるが、数日で配合飼料に切り替えてよい。

利 用

食用として、フライ、てんぷら、蒲焼、刺身等、何にでも美味である。料理店に直接販売したが、期待したほど利用してもらえなかった。刺身にする場合、数カ月の餌止めで皮下脂肪を落とすと非常に美味(ヒラメ級)である。

今後の課題

1. 養殖技術 吉崎氏は一人で取り組み、苦勞して事業化にこぎつけたが、技術向上のためにはさらなる研修と共同の研究体制が必要と思われる。
2. 消費の促進 県内では一般に淡水魚の消費が少ない。まして「ナマズ」では敬遠されるのではないか。イメージのよいネーミングや、特別料理(店)を通じてのPRが必要と思われる。

参考文献

- 1) 丸山為蔵・他(1987): 外国産新魚種の導入経過. 水産庁研究部資源課・水産庁養殖研究所.

(小松 光男)